

＜人を用いられる神＞

使徒9：10～20

＜背景＞

迫害者サウロ。ステパノ（使徒7章）を殺すのに票を投じ、自分の信じた道を貫こうとした。しかし、神の御心を歩んでいたつもりが、敵対していた事をダマスコ途上で知る。神はこのサウロの元に、アナニヤを遣わそうとされた。



1、 にある者の

アナニヤは幻の中で、主にパウロに会いに行くように語られた。

アナニヤにはどんな祈りがあったのか。

- ・自分達の安全と守り？
- ・迫害者サウロを取り去ってほしい？

◆嘆きや身の安全の祈りだけでなかった。むしろ、聖霊に満ちて、主が生きて共におられることを知る、力強い祈りと礼拝があった。救いの喜びと証しに溢れていた。

あなたがたは立ち返って、落ち着いているならば救われ、穏やかにして信頼しているならば力を得る。

イザヤ 30:15

- ◆アナニヤは「主よ。ここにおります。」と即座に応答できる程、祈っていた。しかし、命じられた内容は拒んだ。

行きたくない！ そんな者のために祈りたくない！ 自分も捕まる危険がある！

- ◆アナニヤはサウロの過去を見ていた。しかし主は、サウロを通して福音が異邦人に伝えられる未来を見ておられた。

2、祈りを

迫害していた者と、迫害されていた者が主によって引合された。
神様は何故このような方法を取ったのだろう・・・？

「兄弟サウロ」と祈るアナニヤ。

サウロはへりくだらなければこの祈りを受けることはできなかつたし、アナニヤは赦す心が無ければ祈れなかつた。

◆サウロに与えられた主からの啓示が、アナニヤという第三者にも啓示され、二人は引合されて初めて、互いの身に起きたことが主から出たことであると再確認した。

◆祈り終えた後のアナニヤとサウロの心の距離は変わった。
そして同じミッションに向かう者となった。

アナニヤという人物

律法を重んじる敬虔な人で、そこに住むユダヤ人全体の間で評判も良い。

(使徒 22 : 12)

迫害者サウロが「兄弟サウロ」として教会の中に受け入れられるためにアナニヤは大きな助けとなった。

3、偉大な御業の中を

「兄弟サウロ」といわれたアナニヤの言葉。

サウロの心にどのように響いたのだろうか・・・。

アナニヤは、ただ主の御声に従って行動した。この忠実さが、大きな身を結ぶ結果となった。

サウロ（パウロ）がガラテヤに書き送った手紙

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

ガラテヤ 2 : 20